

タスカルーサ市青少年訪問団が来日しました SEE YOU IN NARASHINO AGAIN

日向 洋美（国際交流部会）

6月16日、アラバマ大学アメリカンフットボールの紅白のボンボンを手に、タスカルーサからの高校生一行（高校生19名、付き添い2名）を成田空港に出迎えました。一行は長旅の疲れもなく、日本への期待と興味で輝いていました。富士山合宿や東京・日光見学を含む12日間のアテンドの始まりです。

アメリカで日本の文化・習慣や見学地の講習を受けてきた生徒たちに、日本で期待することを聞いたところ、過去の受け入れでは日本のアニメが一番人気でしたが、今回の生徒たちの一番人気は富士山、そして日本のテクノロジーとアニメが続きました。

隔年の姉妹都市タスカルーサ高校生の受け入れですが、今年は今までにない取組みがいくつかありました。

1番目は習志野市にある四つの高校全校訪問です。来日2日目に訪問した東邦高校での縁日文化の交流の様子は翌日の新聞で紹介されました。習志野高校ではブラスバンドに感激し、実籾高校ではお好み焼きの実習に舌鼓をうち、津田沼高校では稽古着をつけた武道の実習等・・・温かく良く計画されたおもてなしを受け、生徒同士の交流が深まりました。

2番目は、歓迎会・富士山1泊旅行・送別会に今夏タスカルーサに派遣予定の高校生に



浅草寺 6月23日

も参加してもらい、渡米前にアメリカの高校生との親睦を深めたことです。富士山では梅雨にもかかわらず5合目に着くと雲が移動し、頂上が見えた時は歓声があがりました。夕食後も雨は降らず、線香花火（アメリカにないので一番人気）や星花火をすることは、日米の高校生たちはすっかり仲良しになった様子で、その後はジムで卓球やバスケットを一緒に楽しんでいました。

また、一昨年タスカルーサに派遣された高校生も今は大学生になっていて、彼らも成田空港への送迎や富士山旅行に参加して後輩の指導にあたってくれました。高校訪問時も、その先輩大学生たちが誘導したり、ランチの時にギターを弾いて皆で歌ったりして、両国の若者の交流が進みました。

3番目は、タスカルーサに派遣する予定の高校生のうち数人の家庭がホスト・ファミリーを引き受けて下さったことです。朝夕の送迎時にホストママ同士が子供たちの情報交換などを行ったことを通じて、とても親しくなられた様子でした。帰国時にも多くのホストママが空港まで見送りに来て、涙の別れとなりました。付け加えると、今回来日した高校生のほとんどの家庭が、翌月派遣する日本人



習志野高校 6月21日

高校生のホストファミリーになります。

上記の1~3番は、NIAが高校生派遣を実施することになった結果が良い流れを創り出している証です。

恒例の阿武松部屋訪問はいつものように大人気でした。朝は勇ましく「僕は今日相撲をとる！」と言っていた男子生徒たちが、稽古見学の後にいざ力士相手にぶつかり体験となると怖気づいて「NO!NO!」と言うのも毎回のことです。「いい思い出になるわよ！彼らは見学者には優しいの。貴方はチャレンジャー（アメリカ人はこの言葉に弱い）でしょ。」となだめて土俵に送るのも毎回の私の仕事です。そして土俵での一仕事後に力士と一緒に笑顔の写真を撮り、「GOOD JOB! PROUD OF YOU!」の声をかけると、男子生徒と私は母子みたいに親しくなれるのです。

毎回歓迎式を含めて四つのパーティを主催しますが、ハイライトはいつも「さよならパーティ」です。今回の場所は谷津干潟自然観察センターで、市民の方も含めて出席者は145人でした。今回もハクビきの学院の先生方に浴衣を着つけていただき、三味線の演奏によって浴衣姿のタスカルーサ高校生が登場すると会場は拍手の嵐でした。美しく個性

的に結いあげられた女子生徒の髪形と華やかな髪飾りは、NIA国際交流部会のボランティアの作品です。

最終日に聞いたりサさん(一行の付き添い)の今回の旅の感想は”MAGNIFICENT!(とびきり素晴らしい)”でした。成田空港での見送り時には、ほとんどの生徒が「さよなら」の代わりに”I'll be back!!(戻ってくる!)”と涙で別れを告げていました。

最後に紙面をお借りして、今回の受け入れに御尽力いただいた市関係者の方々、ホストファミリーの皆様、NIAのスタッフと約30人のボランティアの仲間たちに心からお礼申し上げます。



送別式 谷津干潟自然観察センター 6月25日